

# 日本は感染症対策への貢献に誇りを



世界保健機関 (WHO) 事務局長補  
**中谷比呂樹**

年間600万人以上の命を奪うHIV/エイズ、結核、マラリア、特定熱帯病 (NTD) ※。この四大感染症の対策を、世界保健機関 (WHO) 事務局長補として中谷比呂樹さんが統括している。大学時代に予防医学に関心を持ち、卒業後は厚生省 (当時) へ入省。5年間のWHO出向も経験し、一貫して国民の健康水準を向上させるべく公衆衛生普及の仕事に従事してきた。そして今年3月、感染症対策の専門家としてWHOへ転じ、現在は世界の人々のより健康的な暮らしを追求する日々だ。

“Don't be shy”——日本人初で、唯一のアジア系事務局長補として日本の開発援助関係者にそう投げ掛ける中谷さんに、感染症対策における日本・JICAの役割について聞いた。

(続きは裏ページへ)

※フィラリア、シャーガス病、アフリカ睡眠病など14の疾患が含まれる。

世界保健機関（WHO）事務局長補  
（エイズ・結核・マラリア・特定熱帯病担当）

## 中谷 比呂樹

Nakatani Hiroki

1952年山形県出身。医師、医学博士、教育学修士。77年慶應義塾大学医学部卒業。81年オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学大学院修士課程修了。臨床研修終了後、79年厚生省(当時)入省。WHO、広島県への出向などを経て、結核感染症課長、健康局参事官、官房厚生科学課長、障害保健健康福祉部長などを歴任。著書に『グローバル時代の感染症』(共編著、慶應義塾大学出版会)、『現役行政医が書いた臨床公衆衛生ハンドブック』(共著、医療文化社)、『国際保健の優先課題』(共訳、保健同人社)など。2007年3月より現職。



photos by Hamada Kazuo

## 「感染症対策には明確な指針が必要」

公衆衛生の問題として考えられていた感染症に、近年新しい問題意識が出てきました。一つは鳥インフルエンザに代表されるような健康危機管理としての急性感染症です。高齢者や抵抗力の弱い人が世界的に増えており、しかも飛行機でどこへでも瞬時に移動できる世の中になりました。インフルエンザが広まれば、一瞬にして世界中に被害が及びます。

2つ目の問題意識は国の発展の阻害要因としての慢性感染症。まさに私が担当するHIV/エイズ、結核、マラリア、特定熱帯病(NTD)の四大感染症がこれに当たります。HIV/エイズや結核は働き盛りの若い世代を襲う。マラリアやNTDは症状が出たり引いたりして治療に時間とお金が費やされ、労働力を奪う。つまり貧困のもとになる病気なのです。

WHOの対策としては、HIV/エイズは予防・検査・治療へのアクセスの確保。結核は多剤耐性結核とHIVの混合感染に留意しつつさらに対策を進めるべきだと考えます。マラリアは足踏みが続きましたが、ACTという漢方薬を主成分とした複合剤の投与、蚊帳、屋内へのDDT<sup>1</sup>散布の3つを柱とした新しい対策を打ち出して大規模な戦略の企画段階にあり、NTDへの取り組みも強化すべきです。

感染症対策はこうした明確な指針を示さなければ進みません。結核なら医療従事者の目の前で患者に薬を飲ませること。投薬で咳が弱まり一見完治した気がして薬をやめてしまう人が多いが、実際は治っていない。だから本当に治るまで飲ませ続けることが重要で、とにかくそれを世界中で徹底してやってきました。開発途上国では、末端に行けばいくほど、プライマリーヘルスワーカー(医師・

看護師以外の保健医療従事者)が住民の健康医療を担うのです。ですから結核ならこれ、マラリアならこう、という対応策を端的に示し、特異な症例のみ医師に見せるといった指針づくりが大切。これこそ私の考えるWHOの基本的な役割です。

国際的な立場で仕事をしていると、日本人は非常にシャイな感じがします。アジア地域などでのポリオ根絶は日本の貢献なくして成し遂げられなかったと思います。寄生虫やハンセン病対策、予防接種拡大もそうです。殺虫剤を染み込ませた蚊帳の生産技術も高い。日本の援助には誇るべき蓄積があり、官民が協力して緻密<sup>ちみっ</sup>にやってきました。そのことをもっと自信を持って発信すべきです。また、JICAの人は途上国の人との付き合い方が対等です。偉ぶらないというか、人々と一緒になって取り組む姿勢で、説教臭くない。現実的に問題をとらえ、解決しようとする人が多いと感じています。

ただ国際保健のパラダイムが少し変化して、感染症が危機管理や社会開発と結び付いた概念になりつつあり、資金援助のチャンネルが増えてきました。その一例が「世界エイズ・結核・マラリア対策基金」<sup>2</sup>。膨大な資金量ですから、日本もそれを活用しながら二国間援助を行うという、他機関との連携重視型の援助のステップに進む時期だと思っています。

JICAは二国間援助機関、WHOは多国間なので、どう相互補完できるかというのが私の発想です。「win-win」の関係でないと協力も信頼も続かないので、そういう点をいくつか見つけ、拡大できればいいですね。お互い良い仕事をし、共により健康的な世界をつくらうではありませんか。

<sup>1</sup> 殺虫剤の一種。

<sup>2</sup> 開発途上国の発展を阻害し、人間の安全保障への脅威である3つの感染症の予防・治療・ケアなどを目的に2001年に設立された。